

令和5年度 学校評価外部評価書

学校名	北海道富良野緑峰高等学校	外部評価委員会
本年度の重点目標	本校が取り組むべき教育活動について、その意義や本質を再確認した上で実践することにより、本校教育活動のさらなる質の向上を図る ～コロナ前に戻すのではなく、さらなる質の向上を図る～	学校評議員

2 本年度の経営方針

(1) 日常的教育活動を通じて、教育目標・重点目標の具現化に努める。 (2) 日々の授業を大切に、一人一人の生徒の個性や能力を重んじた教育実践に努める。 (3) 分掌、学年、学科、教科間の連携を密にし、一貫性のある調和のとれた教育活動の充実に努める。 (4) 日常の実践活動を基盤とした効果的な研修活動の推進に努め、校内研修の一層の充実を図る。 (5) 家庭や地域との連携を強化し、情報の発信と説明責任を果たせる教育活動に努める。

3 自己評価結果 (A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する)

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策等	自己評価の適切さ	改善に向けた取り組みの適切さ
学習指導	本校の教育方針や教育活動などについて保護者に説明し、これらを踏まえた教育活動に努めている。	B	A	各科に応じた魅力ある科目を検討し、地域に貢献できる充実した学校づくりを検討する。	A	A
	本校は、生徒にどのような力をつけたいかを明確にして、個々の生徒に応じた指導法の工夫・改善に努めている。	A	A	継続して取り組む。		
	主体的な学習態度を育てるため、探究的な学習を取り入れた学習指導を推進している。	A	A	継続して取り組む。		
	ICTの活用など授業改善に向けて、各教科ごとに指導法や評価法の研究に努めている。	B	B	ICTの活用については、学校全体で研修を重ねていく必要		
	学習指導要領の趣旨や狙いを踏まえて、教科指導と特別活動の調和した教育課程を編成し、各科の特色が生かされている。	A	A	新学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえ、各教科の特性に応じた指導方法や評価の観点について、研修を深めていく。		
外部評価者の意見	地域や社会のニーズに則った今後の専門学科のあり方について一考を求める。					
生徒指導	教育活動全体をとおして、生徒一人ひとりの健康な心身と幸せの創造を基本にすえた人格形成教育を推進している。	A	A	継続して取り組む。	A	A
	学年集会や通信をとおし、他者を尊重する心、生命を導ぶ態度の育成、いじめの防止、早期発見に努めている。	A	A	生徒指導部便りなどを活用し情報発信を行い、心の育成や問題行動の予防啓発を行う。		
	いじめの未然防止や発生時の対応など、いじめに係る指導に努めている。	B	A	継続して取り組む。		
	個人面談をとおし、個々の生徒理解に努め、保護者と学校が一体となった生徒指導を進めている。	A	A	教育相談や面談などを活用し、情報の共有を行う事で生徒個々の理解に努めると共に生徒指導に活用する。		
外部評価者の意見	地域との連携事業やボランティア活動などを実施し、地域とともに生徒を育てる生徒指導を行っている。					
外部評価者の意見	いじめに係る指導について、保護者との評価にへだたりがあると感じるので改善を求める。					
進路指導	進路実現に向け、企業開拓や情報、資料の収集を行い、情報の提供に努めている。	B	B	情報の収集方法について、進路室を積極的に活用させ、早期進路意識の向上を図る。進路通信や掲示物により、情報の提供に努める。	A	B
	生徒、保護者はもちろん、地域の期待に応える進路指導を進めている。	A	A	継続して取り組む。		
	地域や関連機関と連携しキャリア教育を進めている。	A	A	進路意識が低下しないよう進路活動の事後指導の充実を		
外部評価者の意見	地域の期待、生徒の希望、学校の指導方針を一致させることは困難だと感じるが、改善を期待する。					
健康安全指導	防災、防犯、交通安全、健康に係る指導に努めている。	A	A	外部人材を活用した各種講話や教室の実施と充実を図る。防災訓練や性の講座、保健便りなどを活用して防災や感染症予防等の意識を高め、正しい知識を生徒に伝える機会を作り、意識の向上、知識の定着ができるよう取り組みの工夫をする。令和7年度の統合に向けて、より一層交通安全指導に努める。	A	A
外部評価者の意見	体育・健康に対する意識が高いほど、生活習慣が規則正しく身につくことを踏まえ、家庭・地域も一体となって取り組んでほしい。					
保護者、地域住民等との連携	本校ホームページ、毎月発行の学校だより「緑峰の窓」、公式LINE等で学校の様子が伝わるように努めている。	A	A	今年度より運用を開始した公式LINEを通して、より迅速かつ丁寧な情報発信に努める。4年ぶりに計画通りにPTA活動をすることができ、改めて保護者との交流が不可欠であることを確認できた。	A	A
	電話や来客に、教職員は気持ちが良い応対をしている。	A	A	継続して取り組む。		
外部評価者の意見	教育成果を一層アウトプットしてほしい。中学校教員に伝わるように一層の工夫が必要ではないか。					
研修	教育実践に基づいた「特別支援教育」、「キャリア教育」、「学習指導要領」、「救急救命法」などの充実した校内研修会を行っている。	A	A	授業公開週間では来校者を増やす工夫と共に、教員どうしの参観も積極的に行えるような工夫と意見交換が出来る場を設けていきたい。	A	A
	教職員として専門的な知識や実践的指導技術の向上を図るために組織的・計画的な研修に努めている。	B	B	オンラインを活用した教育活動についての研修等を引き続き深めていきたい。		
外部評価者の意見	社会が大きく変わろうしている現在、一層の研修が必要と考える。					

4 自己評価における特記事項

「達成状況」「取組の適切さ」は保護者評価・教職員評価、分掌内での反省を総括し評価した。達成状況は全ての項目でB評価以上の結果である。令和7年度の富良野高校との統合も視野に入れつつ、本校の魅力を発信し、生徒募集につながる取り組みを進めていきたい。
--